

水位による判断

河川名 [量水標]	はん濫注意水位[m]	避難判断水位[m]	はん濫危険水位[m]
	河川のはん濫の発生を注意する水位	避難準備情報などの避難情報が発表される目安となる水位	河川がはん濫する恐れのある水位や安全に避難するために避難を開始すべき水位
筑後川 [瀬ノ下]	5.00	6.80	7.10
城原川 [日出来橋]	2.50	3.50	4.32
田手川 [広円橋]	2.60	4.80	5.20

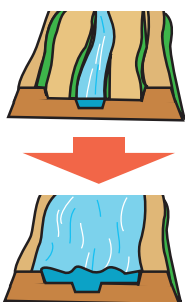
洪水の基礎知識

強い雨が広範囲に、長時間続く時に、洪水災害が発生する危険性が高まります。発生のメカニズムを知り、堤防決壊の前兆に注意しましょう！

洪水

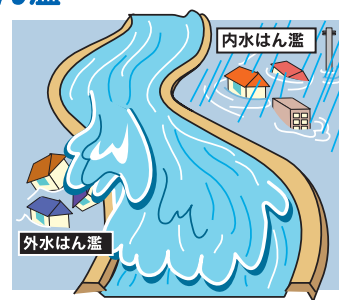
洪水とは雨や雪解けによって、川の水の量がふだんより、いちじるしく増えた状態をいいます。河原へ行くと広い敷地のわりに細い川しか流れていませんが、それがふだんの姿です。

ところが川幅いっぱいに水がおしよせると、広い河原も水の下にかくれて見えません。このように異常に水が増えたときを「洪水」といいます。



はん濫

はん濫とは、雨などによって、街や農地などに水があふれることで、川から水があふれることを「外水はん濫」といいます。川から水があふれたのではなく、街や農地に降った雨がそのままたまってあふれることを「内水はん濫」といいます。



下記のような前触れに注意して、危険を感じたら速やかに避難しましょう

- 堤防の川側が崩れ始めたとき
- 堤防の側面から水が漏れ出したとき
- 水が激流となって、堤防の土が削り取られたり、護岸が壊れ始めた時
- 堤防近くの地盤から水が噴き出すとき
- 水かさが増し、堤防に亀裂が生じたとき
- 増水が早く、水が堤防を越えそうとき

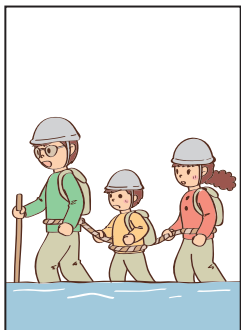
避難する時の6つのポイント

～避難は明るいうちにしましょう。夜間の避難は危険!!～



1. はき物

裸足や長靴は禁物。ひもで締められる運動靴がよい。



2. ロープで体を結ぶ

はぐれないようお互いの体をロープで結ぶ。特に子どもから目を離さない様にする。



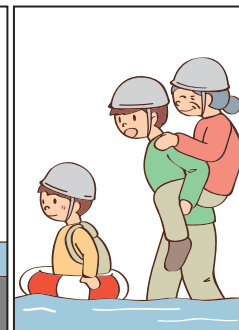
3. 歩ける深さ

水深が50cmを上回る場合は危険。流れが速いと20cm程度でも歩けないこともある。転落の恐れがある場所は、10cm程度でも危険。



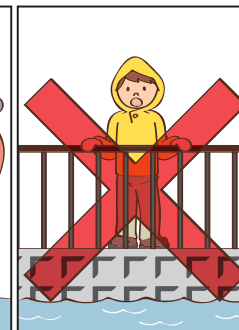
4. 足元に注意

水面下にはマンホール、側溝などの危険がひそんでいます。探り棒（カサ等）を使用して、安全を確認しながら歩く。



5. 子どもや高齢者を安全に

高齢者や病人などは背負う。幼児は浮き輪、乳児はベビーバスなどを利用して安全を確保する。



6. 危険な場所はさける

田んぼや河川の近くは通らない。